

卒業生 Voice

<生活科学部卒業生インタビュー>

授業のゲストスピーカーで来られたおふたりに
授業終了後にインタビューさせていただきました。

◎吉川文佳さん

2012年3月生活科学部

人間福祉学科卒業

勤務先：大阪家庭裁判所
家庭裁判所調査官



◎田中雅之さん

2009年3月生活科学部

人間福祉学科卒業

勤務先：大阪市福祉局
生活福祉部
地域福祉課



Q. どのようなお仕事ですか？

A. 田中雅之さん（以下田中さん）
－大阪市福祉職員で地方公務員として福祉行政に携わっています。

A. 吉川文佳さん（以下吉川さん）
－家庭裁判所で取り扱っている家事事件、少年事件などについて調査を行うのが主な仕事です。

Q. このお仕事について何年になりますか？

A. 田中さん
－今年で14年となります。

A. 吉川さん
－今年で10年目となります。

Q. どのような仕事内容ですか？

A. 田中さん
－実習担当から成年後見人*
*成年後見人は「本人の考えを尊重しつつ」これまでと同じように「自分らしい生活を送れるように支援する」ことが役目です。

A. 吉川さん
－家庭裁判所で取り扱っている家事事件、少年事件について、調査を行うのが主な仕事です。家事事件では、家庭内の紛争のさなかに置かれている子どもに面接をして、問題の原因や背景を調査します。少年事件では、少年や保護者との面接、心理テストをしたり家庭訪問など行い調査します。子どもの幸せにつながる解決方法を検討し裁判官に報告します。

Q. このお仕事についてよかったと思うことは何ですか？

A. 田中さん

－月並みかもしれませんが営利企業ではないので
お金儲けとかではなく、真摯にその人のために
どんなことがよいか、暮らしの支えをつくるには
どんなものがよいか、やりがい目的ではない仕事
がよいです。

A. 吉川さん

－ひとことでいうと楽しい。ヒューマンドラマがある
ところでその人にとって何が良いかを考えることが
よいです。その特色が濃くてよいかかなと思っています。

Q. 入社して大変だったことは？

A. 田中さん

－数えきれないかな笑。入った当初は知識不足もあり、
いろいろな人生経験を積んだ人の話を聞くことが
大変でした。体あたりで対応し、先輩の助言を頼り
に乗り切れました。市民の生活に直接影響するので
大変なことも多いです。ストレス発散はコロナ禍で
最近減りましたが飲みに行くことです！

A. 吉川さん

－全国転勤があるので異動かな。大変な反面楽しさも
あります。全国各地の土地柄や文化などを知ることが
できて、特に小さい支部は町の課題や他部署とも
かかわることができて楽しいです。いろんなところに
住むことで人間大きな経験になると思います！

Q. この職業にはどんな人が向いていると思いますか？

A. 田中さん

– 昨年は大阪市福祉局の人材育成の指針を作りました。その中でどういう人材を求めるのか、職員としては市民に寄り添いながら熱い気持ちを持ちつつ、冷静な判断が必要です。公平性が求められる判断ができて市民から信頼を得られる誠実さが伝わらないといけません。

A. 吉川さん

– 調査官は傾聴が大事であり、また人の話を聞いて文章を書くことが多いです。大学の授業で文章を書くことを身につけておくことが必要だと思います。

Q. これからの夢があれば教えてください。

A. 田中さん

– 夢というかこうなればいいなと思うこと。ずっと心がけていることは「市民の幸せ」です。いまは現場から離れた仕事をしておりますが、市民が幸せになることを実現できることが夢です。

A. 吉川さん

– 夢ではないですが、この仕事を続けていきたい。自分のワークライフバランスがとれていて、転勤とかあって大変さはありますが長く続けていきたいです。

Q. 後輩たちへ

学生のうちにやっておくべきメッセージをお願いします！

A. 田中さん

－学生的时候はいろいろな可能性があります。自分がやりたいと思うことはしたほうがいいです。
今、学生時代の自分にメッセージをおくるなら、いろいろな経験をしたほうがいいよと言いたいです笑。

A. 吉川さん

－楽しく遊んだらよい笑。遊んでバイトして、大阪市立大学の学生時代はみんな助け合って先生も近くて相談しやすく自然に情報を得られて自分が成長しました。人とかかわることで成長できると思いますよ。

お暑い中、授業が終わったあとに、急遽インタビュー依頼をさせていただきましたが、快くお引き受けてくださり、貴重なお話をしてくださいました。

生き生きとした仕事のお話がきけて楽しいインタビュー撮影でした。田中さん吉川さん、ありがとうございました！

<撮影場所：杉本キャンパス生活科学部棟にて>

